

年間指導計画表

教科・科目	理科・物理	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型物理選択者) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理的な事物・現象に関わり、見通しをもって観察・実験を行い、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版「改訂版 物理」 傍用問題集 「リードα 物理基礎・物理」 問題集 「物理のエッセンス 力学・波動」「物理のエッセンス 熱・電磁気・原子」「良問の風 物理」「チェック&演習 物理」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート 実験レポート	10
b. 思考・判断・表現	物理的な物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査	40
c. 観察・実験の技能	物理的な事物・現象に関する観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	実験レポート	10
d. 知識・理解	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。	定期考査	40

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	35	分子運動論・熱機関	分子運動の視点から圧力・運動エネルギー・内部エネルギーを理解する。	○		○	
			電場・電位・コンデンサー	電場・電位の関係を理解し、電気力線や等電位面であらわすことができるようになる。コンデンサーの電気容量・蓄える電荷・静電エネルギーについて理解する。	○		○	
			静電気・直流回路	キルヒホッフの法則から直流回路の電流・電圧を求めることができるようになる。。電流計・電圧計、電池の内部抵抗について理解する。	○		○	
			第1回考査			○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	35	電流による磁場・磁束密度	直線電流・円形電流・ソレノイドがつくる磁場、磁束密度について定量的に理解する。	○		○	
			電磁力・ローレンツ力	電磁力の大きさ・向きについて理解する。運動する荷電粒子が磁場からローレンツ力を受け円運動する現象を理解する。	○		○	
			電磁誘導	コイルを貫く磁束が変化すると、誘導起電力が生じる仕組みを理解する。	○		○	
			自己誘導・相互誘導	電磁誘導の応用として、自己誘導・相互誘導の現象を理解する。	○		○	
			第2回考査		○		○	
後期	10 11 12	35	交流回路・電気振動	交流回路におけるコンデンサー・コイルの役割を理解する。電気振動、電磁波の発生について理解する。	○		○	
			光電効果・X線	光電効果を光の粒子性で理解する。X線についても同様に波動性・粒子性の性質をもつことを理解する。	○		○	
			物質波・ボーアの水素原子モデル	量子条件・振動数条件をもとに、水素原子モデルを学習し、水素原子からの発光のメカニズムを理解する。	○		○	
			核反応式・放射線・結合エネルギー・半減期	放射線の基本的な性質を学ぶ。放射性元素が崩壊するしくみ、半減期の法則性を理解する。	○		○	
			第3回考査		○		○	
	1 2	20	1年間のまとめ	1年間のまとめを行い、入試問題が解けるようになる。		○		○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書: 第一学習社「化学」 副教材: 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」、 数研出版「化学重要問題集—化学基礎・化学」、 実教出版「サイエンスビュー化学総合資料」、 駿台文庫「共通テスト実践問題パックV 化学」 数研出版「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート、観察、小テスト	10%
b. 思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポート、定期考査	40%
c. 観察・実験の技能	化学的な事物・事象に関する観察、実験などを行う際、実験器具などの基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験、レポート	10%
d. 知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	小テスト、定期考査	40%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	32	第三章 無機物質 第1節 非金属元素 第2節 典型金属元素 第3節 遷移元素 第4節 無機物質と人間生活	非金属の単体や化合物について、それらの性質や用途を学習し、生成法を理解する。 金属の単体や化合物について、それらの性質や用途を学習し、製造法を理解する。 沈殿生成反応に基づいて、種々の金属イオンの分離方法を導き出すことができる。	○		○	○
			第四章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴と分類	【無機物質の確認テスト】 有機化合物の特徴と分類について理解する。 化学式を決定する実験原理を学習し、既習内容と関連付けて導出方法を理解する。 【第1回考査】	○		○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	32	第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物 第5節 有機化合物と人間生活	アルカン、アルケン、アルキンなど脂肪族炭化水素の性質を、化合物の構造に関連付けて学習する。 アルコールなど、酸素を含む脂肪族化合物について、それらの性質や反応性の違い、構造や官能基の違いと関連付けて学習する。 【脂肪族化合物の確認テスト】 芳香族化合物について、それらの性質や用途を理解する。 また、脂肪族化合物の反応性との相違点を、脂肪族化合物の性質と関連付けて理解する。 界面活性剤など人間生活に関連の深い物質の性質や用途を理解する。 【第2回考査】	○	○	○	
			○	○	○		○	○
後期	10 11 12	32	第V章 高分子化合物 第1節 合成高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 第3節 高分子化合物と人間生活	高分子化合物について、その分類や重合の違いとそれに基づく性質の違いを理解する。 糖類、アミノ酸、タンパク質、核酸など天然有機化合物の性質を構造や有機化合物の内容と関連付けて学習する。 合成繊維、合成樹脂、合成ゴム、機能性高分子化合物について、それらの構造や性質を理解する。 【高分子化合物の確認テスト】 記述力を高めるための基本的な問題演習を行う。	○		○	○
			記述形式の問題演習 全範囲の総復習を行う	既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。 【第3回考査】	○	○	○	○
	1 2	20	全範囲の総復習を行う	既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。				○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学演習	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学的な事物・現象への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力の伸長を図るとともに、化学基礎の学習内容を踏まえた上で、より発展的な概念の習得や科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書: 第一学習社「化学基礎」 副教材: 第一学習社「セミナー化学基礎+化学」、 実教出版「サイエンスビュー化学総合資料」 駿台文庫「共通テスト実戦問題 バックV 化学基礎」 数研出版「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎」

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	ノート、観察、小テスト	10%
b. 思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	レポート、定期考査	40%
c. 観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行う際、実験器具などの基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験、レポート	10%
d. 知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	小テスト、定期考査	40%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	17	第3章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	酸化と還元の定義を理解する。代表的な酸化剤と還元剤について学習し、それらの反応を理解する。 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を理解し、金属の精錬や電池・電気分解の原理を学習する。	○		○	○
			第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表 第3節 物質と化学結合	副教材およびプリント教材を使って、学習済みの内容(特に、原子の構造、化学結合)を復習する。	○			○
				第1回考査		○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	18	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 第2節 酸と塩基の反応	副教材およびプリント教材を使って、学習済みの内容(物質、化学反応式、酸・塩基・中和)を復習する。 第2回考査	○		○	
							○	
後期	10 11 12	18	記述形式の問題演習 全範囲の総復習を行う	既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。 第3回考査		○		○
						○		○
	1 2	10	全範囲の総復習を行う	既習事項を踏まえ、読解力と思考力を養えるように問題演習を行う。		○		○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科普通(理科型 生物選択者) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書:「改訂版 生物」(数研出版) 副教材:「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版) 「六訂版 リードα 生物基礎+生物」(数研出版) 「進研WINSTEP 生物 改訂版」(ラーンズ) 「大学入学共通テスト 生物 単元別問題集」(駿台文庫)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	授業・ノート レポート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	問題演習 定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	観察・実験 レポート	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、正確な知識を関連付ける能力を身に付けている。	問題演習 定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	32	第4章 生殖と発生	・細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解させる。前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。	○	○	○	○
			6. 細胞の分化と形態形成					
	7. 植物の発生		・植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解させる。					
	5		第5章 動物の反応と行動	・ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とそのはたらきを理解させる。 ・受容器で受け取られた刺激(情報)が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に取り上げ、効果器に関しては筋肉を中心に取り上げる。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。				
	6		1. ニューロンとその興奮					
			2. 刺激の受容					
3. 情報の統合								
4. 刺激への反応								
5. 動物の行動	○	○	○	○				
			第1回考査	○	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	32	第6章 植物の環境応答 1. 植物の反応 2. 成長の調節 3. 花芽形成と発芽の調節	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解させる。そのうえで、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。 ・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。その際、生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解させる。 ・生態系における物質生産について学習する。その際、いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識させる。 第2回考査	○	○		○
	8		第7章 生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間の調節 3. 異種個体群間の関係		○	○	○	○
	9		4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性		○	○	○	○
後期	10	32	第8章 生命の起源と進化 1. 生命の起源 2. 生物の変遷 3. 進化のしくみ	・原始地球の状態や、どのように生命が誕生したのか、また進化がどのようなしくみで起こったかについて興味・関心を持ち、積極的に考えることができる。 ・生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解させる。その際、形態的な特徴などにもとづいた分類ばかりでなく、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについて扱う。個々の分類群については、その概要を学習する。	○	○		○
	11		第9章 生物の系統 1. 生物の分類と系統 2. 原核生物 3. 原生生物 4. 植物 5. 動物 6. 菌類		○	○		○
	12		問題演習		・問題演習を通して、「生物」の学習内容を復習する。これまでの学習を通して理解したことを表現することができる。 第3回考査		○	○
	1 2	20	学習内容のまとめ	・問題演習を通して、「生物」の学習内容を復習する。理解した内容をもとに、問題に対する正解を導くことができる。		○		○

【その他】

授業を大切に、そこで学ぶことを一つ一つしっかり理解していくことが大切である。単なる知識の理解だけではなく、1つ1つの事象に対して「なぜ」という疑問を持ってほしい。また、学習したことを活用してその疑問に対する答えを見出し、言葉で表現できるようになることが望ましい。

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物演習 A	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通(文科型) 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書: 「改訂版 生物基礎」(数研出版) 副教材: 「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版) 「つかむ生物基礎」(浜島書店) 「大学入学共通テスト 生物基礎 単元別問題集」(駿台文庫)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、それらを意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	授業・ノート レポート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、それを探究する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	授業 定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	観察・実験 レポート	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、正確な知識を関連付ける能力を身に付けている。	問題演習 定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	16	「1. 生物の特徴」の復習	・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。	○			
	5		「2. 遺伝子とそのはたらき」の復習	・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。		○		
	6		「3. 生物の体内環境」の復習	・顕微鏡の操作方法や、実験・観察の手順を正しく理解し、正確に行えるようにする。			○	
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	16	「4. 植生の多様性と分布」の復習 「5. 生態系とその保全」の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。 ・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。 ・生態系に関する実験、観察が正確な知識に基づいて行えるようになる。 ・「生物の多様性と生態系」に関連した生物の関連性や自然現象について理解する。 	○			
	8							
	9							
後期	10	16	全範囲の演習1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した内容を、積極的に復習することができる。 ・グラフや図を含む演習問題について、データを整理し、科学的に考察を行うことができる。 ・実験操作や観察の適切な方法を選択することができる。 ・「生物基礎」で学習した知識を正確に理解し、解答することができる。 	○			
	11							
	12							
	1	10	全範囲の演習2	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って演習に取り組むことができる。 ・限られた時間の中で正しく問題を理解し、正答を導き出すことができる。 ・データをグラフや図として表現することができ、それをもとに科学的に結論を導くことができる。 ・これまでに授業で習得した知識を活用して、新たな問題に取り組むことができる。 	○			
	2							
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物演習B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書：「改訂版 生物基礎」(数研出版) 副教材：「三訂版 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版) 「五訂版 リードα 生物基礎」(数研出版) 「つかむ生物基礎」(浜島書店) 「大学入学共通テスト 生物基礎 単元別問題集」(駿台文庫)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、それらを意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	授業・ノート レポート	10%
b. 思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見だし、それを探究する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	授業 定期考査	30%
c. 観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	観察・実験 レポート	10%
d. 知識・理解	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、正確な知識を関連付ける能力を身に付けている。	問題演習 定期考査	50%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	16	「1. 生物の特徴」の復習	・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。 ・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。	○			
	5		「2. 遺伝子とそのはたらき」の復習	・顕微鏡の操作方法や、実験・観察の手順を正しく理解し、正確に行えるようにする。		○		
	6		「3. 生物の体内環境」の復習	・「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」に関連した生物の構造やしぐみについて理解する。				○
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	16	「4. 植生の多様性と分布」の復習 「5. 生態系とその保全」の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習の過程において、さまざまな生物や生命現象に対し、疑問を持っているか。 ・生物に関するさまざまなデータに基づいて、生命現象を科学的に考察することができる。 ・生態系に関する実験、観察が正確な知識に基づいて行えるようにする。 ・「生物の多様性と生態系」に関連した生物の関連性や自然現象について理解する。 	○	○	○	○
	8							
	9							
後期	10	16	全範囲の演習1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した内容を、積極的に復習することができる。 ・グラフや図を含む演習問題について、データを整理し、科学的に考察を行うことができる。 ・実験操作や観察の適切な方法を選択することができる。 ・「生物基礎」で学習した知識を正確に理解し、解答することができる。 	○	○	○	○
	11							
	12							
	1	10	全範囲の演習2	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って演習に取り組むことができる。 ・限られた時間の中で正しく問題を理解し、正答を導き出すことができる。 ・データをグラフや図として表現することができ、それをもとに科学的に結論を導くことができる。 ・これまでに授業で習得した知識を活用して、新たな問題に取り組むことができる。 	○	○	○	○
	2							
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・地学演習	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科普通(文型) 第3学年 普通科国際コミュニケーションコース 第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察や実験を通して地学的に探求する能力と態度を養う。地学の基本的な概念などを理解し、科学的な思考力を養う。
使用教科書・副教材等	教科書: 地学基礎改訂版(啓林館) 副教材: 十訂版スクエア最新図説地学(第一学習社) センサー地学基礎(啓林館) マーク式基礎問題集地学基礎改訂版(河合出版)

2 評価の観点及びその趣旨

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	地学的な事物・現象に興味や関心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	授業内成果物	25%
b. 思考・判断・表現	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 授業内成果物	25%
c. 技能	地学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	定期考査 授業内成果物	25%
d. 知識・理解	地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。	定期考査	25%

3 学習計画及び評価方法等

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4 5 6	16	地球の概観と内部構造／プレートテクトニクス	地球の形と大きさや内部構造について探究する。プレートの分布と運動の様子から大地形の形成を探究する。	○	○	○	
			地震／火山活動／火成岩	地震発生の仕組みや、火山の分布や火山活動の特徴を地球内部のエネルギーやプレート運動と関連づけて探究する。	○	○	○	
			堆積岩	露頭の観察から地層の形成過程を探究する。鉱物粒子の形や大きさの違いから地層の成因を推定する力を養う。	○	○	○	
			地層と地質構造	不整合や褶曲や断層などの地質構造が過去の地殻変動を推定するうえで、有効な手段であることを調べる。	○	○	○	
			地球の歴史	古生物の変遷から地質時代が区分され、地球環境がどのように移り変わってきたかを探究する。	○	○	○	
				第1回考査		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7 8 9	16	大気構造	気圧や気温の鉛直方向の変化を調べ、オゾン層やオーロラなど大気中でみられる現象の仕組みについて探究する。	○	○	○	
			太陽放射	地球全体として太陽放射量と地球放射量がつり合っていることを探究するとともに、温室効果の仕組みを調べる。	○	○	○	
			大気・海水の運動	偏西風や黒潮やコンベアベルトなどを調べ、大気の大循環や海水の運動によって熱が輸送されていることを探究する。	○	○	○	
			日本の天気	日本の季節の気象現象を調べる。地球温暖化やエルニーニョ現象をデータに基づいて人間生活と関連づけて探究する。	○	○	○	
			太陽系と太陽	地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す環境をもつ惑星となった過程を探究する。	○	○	○	
			太陽と恒星	太陽の表面やスペクトル観察などを通して、太陽活動について探究する。また、恒星としての太陽の進化を調べる。	○	○	○	
			太陽のスペクトルについて	太陽表面やスペクトル観察を通して、太陽活動について探究する。また、恒星としての太陽のすがたと進化を調べる。	○	○	○	
			恒星の一生について	太陽のエネルギー源が核融合反応であることを調べ、恒星の誕生から末期までの進化の過程について探究する。	○	○	○	
			宇宙のすがた	宇宙がビッグバンから誕生し、膨張していることを調べる。銀河系や銀河群、銀河団及び宇宙の大規模構造を調べる。	○	○	○	
				第2回考査		○	○	○
後期	10 11 12	16	大学入学共通テスト対策	大学入学共通テスト本試験・追試験の過去問題やその他の問題演習を通して、問題分析を進め、実力を養成する。	○	○	○	
				第3回考査		○	○	○
	1 2	10	大学入試共通テスト対策	センター試験本試験・追試験の過去の問題を解き、分析する。大学入試共通テストの新傾向問題を分析する。		○	○	○
【その他】 ①本授業は受けるものではなく、参加者全員で創る授業です。主体性をもって参加しましょう。 ②問いを立てることはABLEだけではなく、地学(科学)ともつながります。常に自分の中に問いを立てましょう。 ③言葉を暗記するのではなく、常に現象や背景のつながり、仕組みを考えることで、論理的・科学的思考力を鍛えましょう。 ④「読解」を常に意識して、学びましょう。								